

令和2年度働き方改革推進事業中間報告会（日高管内）

日高町立富川中学校公開研修会

12月3日、授業公開、実践発表、講演等、一日を通して公開研修会の中で中間報告会を開催し、教育局、町教育委員会、近隣学校職員等が参加しました。現状の見える化が的確で、分かり易い発表でした。

現状把握、検証など組織マネジメントがしっかりとおり、教職員の意識も高まっています。中学校は部活動のあり方が今改革の大きなウェイトを占めていますが、今後、教育委員会や運営協議会、地域との課題共有が一層重要なことを示唆しました。

【主な取組】

- ①会議の効率化
- ②閉庁日の徹底
- ③定時退勤日の徹底
- ④部活動時間の短縮

【在校等時間の変化】

前年比△1.0～△1.5時間

【ワンポイント】学校単独でなく地域揃って改革！

ひとこと

学校単独でできる取組もありますが、それだけでは限界があります。縦横の共通理解と連携を図り、それぞれの役割を推進しなければ改革は成し遂げられません。日高町は、委員会と学校がスクラムを組んで推進し、効果を上げています。

2 成果と課題

(1) 成果

①職員の勤務時間の縮減
→退勤時間の変化（別添資料2参照）

【平均勤務時間の変化】（4～8月）
校長 R1：10時間16分 R2：8時間39分
教頭 R1：10時間18分 R2：8時間46分
教諭A R1：9時間29分 R2：8時間25分
教諭B R1：10時間43分 R2：8時間41分

※概ね、全職員とも前年比80～90%に削減

【部活動終了後のミーティング】

活動時間短縮で明るいうちに解散



【データの蓄積で、意識にまで影響】

勤務時間の経年変化を可視化し、フィードバック

日高町教育委員会報告

中間報告会では、町教育委員会の担当からも報告がありました。昨年度から細やかな出退勤管理を行い、町内個々人の状況を見える化しています。

富川中学校の発表においても、「日高町の取組として、」というフレーズが多く、学校単独ではなく地域揃って推進している様子が伝わりました。

町教育委員会では、コミュニティ・スクールの活用による取組の推進を挙げており、今後、一層強力に推し進める考えを示しました。